



もいまち

平成28年(2016年)2月

第66号

議会だより



写真/「放水はじめ」～森町消防団 新年出初式～

《主な内容》

災害に備える 安心・安全のまち	2～3
一般質問 部活動の合同チーム編成を他	4～5
先進地に学ぶ ～常任委員会報告～	6～7
議会報告会を行いました	8
議長あいさつ／研修報告	9

安心・安全のまち

森町議会は、12月定例会を4日から21日までの会期で開催しました。

提案された平成27年度補正予算、条例など14議案を審議し、すべて可決しました。また、専決事項の承認、傍聴規則の改正を行いました。

一般質問は、村松町政5期16年の思い、中学校の部活動、防災情報の周知と住民向けメール配信、マイナンバーカードなどについて、4人が質問をしました。(4～5ページに掲載)

補正予算

一般会計など、4会計の補正予算を審議しました。

主な内容をお知らせします。

一般会計 追加 6464万9千円

総額 78億9000万9千円

一般会計補正予算(第6号)

商店会街路灯のLED化補助金として288万4千円

北戸綿工業団地1号線の舗装割れ等への対応として1450万円

新堀川の堆積土砂や草木の対応工事に700万円

拠点防災倉庫(南町)の防災資機材の購入費として1008万2千円



太陽光発電の夜間照明灯(写真は森小設置のもの)

町内14指定避難所への夜間照明灯の設置と、森アリーナへの避難所看板の設置費として1382万8千円

森小学校舎の防災機能強化のための工事設計委託料として308万9千円

選挙権の年齢引き下げに対するシステム改修費として91万6千円

新入学児童へ支給する防犯ブザーの費用として12万8千円

【賛成討論】

町民の安心・安全を守り、地域住民の要望に応え、子育て支援整備の充実を図る有意義な予算である。

(伊藤議員)



防災拠点倉庫(南町)

条例

森町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用等に関する条例

【制定】

【反対討論】

個人番号法は中止すべき。制度のメリットは、住民にとってはほんの一部ではない。

(西田議員)

【賛成討論】

国の法律施行に合わせた条例制定であり、システムの連携に支障があつてはならない。

(山本議員)

災害に備える

専決処分

一般会計補正予算(第5号)

昨年9月の台風・豪雨により被災した道路等の災害復旧にかかる補正予算について、全員の賛成により承認しました。

議員発議

森町議会傍聴規則 (一部改正)

傍聴者名簿の記載事項から「年齢」を外し、団体の場合には代表者のみのみ記載で傍聴できるよう、改正を行いました。

補正予算(追加議案)

一般会計補正予算(第7号)

11月27日に太田康雄議員が辞職したことに伴い、補欠選挙を行うための費用として254万7千円

一般会計 追加 254万7千円

総額 78億9255万6千円

議長選挙

12月21日に榊原淑友議長が辞職したことに伴い、議長選挙を行いました。選挙の結果、片岡健議員が議長に就任しました。

12月定例会の審議結果

議案名		結果	備考	議案名		結果	備考
専決	専決処分の報告承認を求めることについて	承認	全員賛成		平成27年度森町一般会計補正予算(第6号)	原案可決	全員賛成
条例	森町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用等に関する条例	原案可決	反対 西田・鈴木議員	補正予算	平成27年度森町介護保険特別会計補正予算(第2号)	原案可決	全員賛成
	森町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成		平成27年度森町公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決	全員賛成
	森町税条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成		平成27年度森町水道事業会計補正予算(第2号)	原案可決	全員賛成
	森町農業委員会の委員の定数条例	原案可決	全員賛成		平成27年度森町一般会計補正予算(第7号)	原案可決	全員賛成
	森町農業委員会の農地利用最適化推進委員の定数条例	原案可決	全員賛成		一般議案	静岡県市町総合事務組合規約の変更	原案可決
	森町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	原案可決	全員賛成	森町道路線の廃止		原案可決	全員賛成
				森町道路線の認定		原案可決	全員賛成
			発議	森町議会傍聴規則の一部を改正する規則	原案可決	全員賛成	



小沢 一男

村松町政

5期16年の思いは

問 5期16年のかじ取りをした町政への努力と評価、また残された重要課題について伺う。

町長 就任当時、森町をいかに魅力ある住みよい町にしていくか、議会を始め様々な方々と対話を推進した。

県の財政シミュレーションでは、平成20年には財政が破綻すると見通される中、森町が単独でも魅力あるまちづくりが可能となるよう、集中改革プランの実施をはじめとする行財政改革を徹底して実施した。

ハード事業については、合併60周年記念冊子「10年のあゆみ」にあるとおりで、ソフト事業については子育て支援事業を中心に取り組んできた。

評価については、総合計画及びマニフェストに掲げた取組のほぼ100%の着手率となっている。

次期町政に残された課題については、10月末に策定した森町版総合戦略を踏まえ、地方創生の実現が重要であり、第9次森町総合計画の策定も大きな課題である。



平成24年4月に開通した新東名高速道路

また、県と取り組んでいる内陸フロンティア構想推進による企業や人の誘致、土地利用の活性化、人口減少を遅らせ人口を維持することなどが課題であり、「遠州の小京都」のまちづくりも重要であると認識している。

16年間の町政にご支援・ご協力いただいたことに感謝申し上げます。

町政を問う ～一般質問～



小澤 哲夫

中学の部活動の

合同チーム編成を

問 中学校の部活動の種類を増やし、野球部のように合同チームを編成して、練習や大会参加はできないか。

また、外部指導者を募っての練習・大会参加等の考えはあるか。

教育長 野球等6つの団体競技では、日常的に合同練習を行い、それぞれの学校に顧問を置くことを条件として、複数校による合同チームでの大会参加が認められている。



練習に打ち込む球児(旭が丘中学校)



野球部 合同練習の様子

部活動指導は授業とは別の指導力が求められ、管理・運営のノウハウや技術指導を学ぶ必要がある。

事故防止、指導体制の整備を考慮すると、現在の運営が限界で、新たな部の設置や復活は難しい。

しかし、現存の部活動において部員数が減少した場合は、合同にするということは考えられる。

また、外部指導者を募ったとしても、教諭による顧問は必要であるので、今後の検討の材料にしていく。



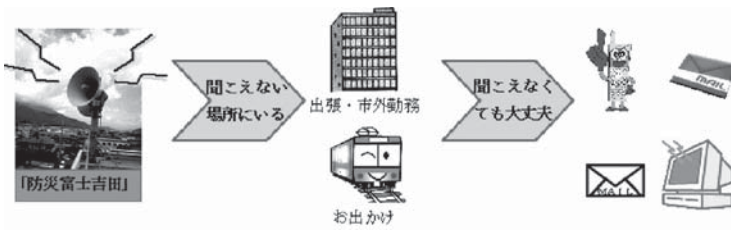
伊藤 和子

防災メール配信で 迅速・正確な情報伝達を

問 最近では多くの自治体が、災害時に迅速かつ正確な情報伝達ができる、住民向けの「防災メール」配信サービスを実施している。情報を得る機会が増えると、住民の防災意識が高まり、人的被害の軽減にもつながる。導入の考えは。

町長 森町では、防災に関する情報については様々な伝達方法をとっている。基本的には同報無線を主体に考えており、「住民向け防災メール配信サービス」の実施は、今のところ考えていない。

聴覚障害者の方にも放送内容が伝わる



例：富士吉田市の防災メール配信システム

問 同報無線にもデメリットがある。防災情報伝達手段の多重化は早急に取組むべき課題と考える。特に、聴覚障害者の方々にとっては、メールの配信は必要であり、命に直結する問題である。行政側からの情報発信は、健常者や障害者の方々に、平等かつ公平でなくてはならないと考えるがどうか。

町長 森町では災害時に全世帯へ聞こえるように同報無線を設置した。障害者の方々には、メール配信ではなく、近所の方々や家族を通じて知らせるなどが、行き届かないときにはどういった体制を取って知らせればよいか考える必要がある。

町政を問う ～一般質問～



西田 彰

マイナンバーカード について

問 現時点での通知カードの配達状況は。

町長 419世帯分が役場に返され、交付が必要な395通のうち、212通はすでに配達した。残りについては、電話やはがき等で連絡をして手元に届くようにしたい。

問 町のホームページには「カード申請は希望者」とあるが、全世帯配布のパンフレットでは「希望者」任意」という文言がない。法律でも明記されているのに不誠実ではないか。

町長 パンフレットの6ページ中段の表中で「申請者のみ」としており、「希望者」と同じ意味であると考えている。

問 マイナンバーのデメリット、気をつけることを明確に知らせるべきだと思つが、考えを伺う。

町長 町民にデメリットが出ないよう、職員の研修を徹底し、セキュリティ

ティにも万全を期するとともに、特定個人情報等取扱規程の策定など、情報漏えいのないようにしていく。

WiFi化促進について

問 公共施設、観光施設へのWiFi化の要望が出されている。広い年代、観光客等、利用者は拡大の一途であり、森町の発展にも必要と考える。直ちに取組むことを期待するが、考えを伺う。

町長 現在は町民生活センターと森アリーナの2箇所に設置しており、住民サービス、観光情報の提供、災害時の情報伝達手段などに有効であることから、役場庁舎、文化会館、保健福祉センター等の公共施設への早期設置を検討したい。

観光施設等は民間事業者の力を活用したい。たとえば、自動販売機への設置は安価で可能と聞いている。

先進地に学ぶ

第一常任委員会

高齢化社会へ

迅速に対応

伊達市は、超高齢化・人口減少社会の到来をいち早く予測し、平成13年度に行政と民間の協働による「伊達ウエルシーランド構想」を策定しました。

構想の目的としては、一つ目に、伊達市内及び近郊だけでなく、北海道ひいては全国各地から高齢者が住んでみたいと思う魅力ある町。二つ目に、新たなサービスの導入によりコミュニティビジネス+新たな雇用が創出され、働く女性や若者の流入が進む活気ある町。三つめに、このような働く人たちが住み続けたいと思う安心・安全の町、となっております。

民間活力でつくる 安心ハウス

主な取組としては、一つ目に「伊達版安心ハウス」の提供で、市の独自基

準である認定制度を制定し、高齢者が安心・安全・快適に住むことができる

良質な高齢者向け住宅を民間活力により普及促進しています。

現在、伊達市内には2棟65戸が民間事業として供給されていて、稼働率は7〜8割とのこと。

一戸建てを増やし

人口流入を

二つ目は「伊達版優良田園住宅」『田園せきない』の提供で、良好な自然環境を形成している地域に一戸建ての住宅を建てられるよう、国の法律に基づき基本方針を平成17年3月に策定し、民間開発による建設事業を進めてきました。

区画は127坪〜257坪までの全53区画、販売価格は502万3千円〜898万円、指定された市内の建築業者に住宅建築を依頼する建築条件付きで、約5年で宅地販売を終了したそうです。

高齢者の足

乗り合いタクシー

三つ目は「伊達版ライフモビリティサービス『愛のリタクシー』」で、高齢者等自動車を運転しない方々が、負担が少なく安心して利用できる新しい交通手段として、会員・予約制の乗り合いタクシー事業を推進しています。



- ◇ドアtoドアの移送サービス
希望の場所から希望の場所までドアtoドアで移送
- ◇低価格でのサービス提供
乗り合いも取り入れることにより、一運行当たりの利用者数を増やしタクシー以下の料金での移送サービスを提供
- ◇従来にない生活支援サービスの提供
移送サービスだけでなく、これまでにはない買い物代行などの生活支援サービスも付加サービスとして提供



<通常車/普通タクシー>



<定時車/ジャンボタクシー>

高齢者にやさしい「愛のリタクシー」

平成26年度末の事業実績は、会員2300人、年間利用数14500件、1日当たり53件の利用で、補助額は年間1400万円となっています。

この他、たくさんの参考になる事業を展開していました。今後の第9次総合計画策定にしっかりと活かせるよう、研究を進めていきたいと思っております。

11月17日・18日・19日にかけて、少子高齢化対策に取り組む北海道伊達市、農作物のブランド戦略で有名な北海道夕張市農協の視察を行いました。

第二常任委員会

炭鉱からメロンに

近年、静岡のマスクメロンを脅かす存在となった夕張メロンの販売戦略を学ぶため、夕張市農協にて視察を行いました。

夕張市は炭鉱の町として栄え、一時は人口116908人の都市でしたが、平成19年3月に事実上財政破たんをし、現在では、人口9362人ということです。

夕張市農協の正組合員は、183戸264名、職員数は56名、理事8名と



夕張メロンの販売戦略を学ぶ

いう小さい農協です。販売事業は23億8700万円、そのうちメロンが約93%を占め、規格外品を有効利用した加工品売上も約4億3千万円あり、まさに夕張メロンの農協となっています。

「夕張メロン」を商標登録し、一元出荷全量共撰方式の確立、徹底した品質管理等を行い、高級メロンとしてのブランドの確立と保護をしているとのこと。


メロンの誕生から

全国への販路拡大

夕張メロンは、昭和32年に、農業改良普及員が、ウリのような「スパイシー」というメロンに出会い、品種改良に乗り出したのが始まりでした。

昭和35年に農協の生産組織として、メロン組合を立ち上げ、「品質管理こそが産地の命である」として、大変厳しい出荷基準を作り、現在の夕張メロンを誕生させたのです。

その後、販売拡大を模索しているとき、円山球場での巨人戦で、ホームラン賞に夕張メロンを提供し、食べた選

 昭和52年5月16日登録	 昭和54年5月31日登録	夕張キングメロン 平成9年2月24日登録
 昭和52年9月12日登録	夕張メロン 平成5年10月29日登録	夕張キング 平成8年6月28日登録
 昭和52年9月12日登録	 平成7年10月31日登録	YUBARI KING 平成9年3月12日登録
 平成7年10月31日登録	 平成7年10月31日登録	YUBARI KING MELON 平成5年5月23日登録

ブランドの歴史、商標登録
※平成5年6月11日 夕張メロン商標権獲得 平成6年9月30日 夕張キングメロン商標権獲得

手が「北海道の楽しみは、海産物と夕張メロン」と話したことから、認知度が一気に上がり、全国的にギフトとして扱がっていったのです。

また、規格外メロンの果肉やジュースなどは、大手菓子メーカーや地元商店などに幅広く活用されています。一社一商品程度に限定して「夕張メロン」の名前入りの商品が出されています。

「夕張メロン」が、全国で1年中出回ることに伴う知名度向上への戦略のひとつであります。

視察を終えて

森町でもレタスやトウモロコシ、治郎柿などがあります。しかし今日、TPPや他産地の追い上げ等があり、森町でも安閑としてはいられません。

消費者の心をつかみ、安全・安心な農産物をこれからも生産していく努力が必要になります。

自然相手のリスク管理・価格管理といった意味からも、他の品目を模索・研究していくことも必要かと思われます。

夕張市農協の産地化への努力や方法・戦略は、これからの森町の方向性への教示のひとつとして、大変参考になるものだと感じています。



道の駅「夕張メロード」には限定商品も

議会報告会

開かれた議会を目指して

森町議会は、昨年12月2日、森町文化会館にて議会報告会を開催しました。25人の住民の方にお集まりいただいた中で、26年度決算の報告や、前回のご意見・ご質問に対する回答をいたしました。

ここでは、本報告会で寄せられたご意見・ご質問について掲載します。

新東名内の たばこ税は

Q 新東名のパーキングエリア内で販売しているたばこ税はどのくらいなのですか。

A たばこ税については、森町内で売られたものは、森町に税金が入ってくる。

提案書の 公表は

Q 地方版総合戦略の策定において、町で提案書を募集したと思うが、応募された提案書はどこかで公表しているのか。

A 町のホームページで見られる「地方版総合戦略まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中に、「住民の意識希望に関する分析」というアンケート調査の結果が書かれているが、具体的な意見・提案などは書かれていない。

他の人の意見・提案も参考になると思うので、公表については議会からも当局へ働きかけていく。

町営バス 条例改正を

Q 町長宛に要望書を提出したというが、議員発議として条例改正案を出すべきではないか。

A 実際にバスに乗り、町営バス・路線バス運行会社へ聞き取りを行った上で方向性を決定し、11月に具体的なルートや時刻表を含めた見直し案を提出した。

議会としても半年以上をかけて作成した案であり、当面は町行政当局の努力に期待する。



議会の考えを 聞きたい

Q 町の回答を書いて読むだけでなく、議会としてのスタンスや意見を伺いたい。

A 議会報告会で頂いた問題については、毎月の勉強会の中で議論をしている。その一つが先のバス問題である。

今後検討する課題については、議員全員で議論をし、議会としての方向性を探り、当局へ提案し、皆様へ報告していく。



「新議長あいさつ」

新東名を活かした町づくり

森町議会第25代議長 片岡 健



12月議会において前議長の辞職に伴い、森町議会議長に就任させていただきました。ありがとうございました。

議会として、毎月勉強会を開催し、町の課題に取り組んでおります。森町には、活性化を進める上で多くの有利な要因が存在します。

新東名高速道路の開通により物流関係が良くなり、民間企業等が森町に魅力を感じ、進出してくる可能性が高くなっています。そうした企業を受け入れるため、計画的な開発に取り組んでいかななくてはなりません。

また、森町は歴史文化の古い町で神社・仏閣も多く、これらを観光産業に活用していくことも大切です。

新東名の開通により、森町を訪れる人も増えております。人の出入りが多くなることは、活性化への大きな要因です。

議会も行政と一体となり、町の発展に取り組んで参りますので、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

見出しのチカラ

「議会だより広報研修報告」

平成27年11月8日に、静岡県町村議会主催の広報研修会が、静岡市にて行われました。

本研修会では、「読みたくなる広報誌編集はじめの一步」と題し、日本エディタースクール講師である「西村良平」氏にご講演を頂きました。

講演では、見出しについての説



明に力を入れられており、「そのページの中で一番言いたいことを見せる」といった指導がありました。

その後、実際の各町の議会だよりを用いた「議会報クリニック」を行いました。

みんなのこえ

感謝の気持ちを第一に

森JVC(バレーボール)

私たち森JVCは、小学生バレーボールのスポーツ少年団として発足し、10年が経過しようとしています。現在団員は17名です。

全員が感謝の気持ちをもち、あいさつ・返事・準備・片づけが当たり前に行えることをスタートラインとして活動してきました。

小学生の時から心身を磨き、立派な大人になるための場であってほしいと願っています。



昨年は、新しい総合体育館・森アリーナが完成し、早速大会や指導者講習会などに利用させていただきました。

森JVCは、森町の皆様に可愛がっていただけの団でいられるよう、感謝の気持ちを忘れずに活動していきます。

団員も募集中です。お気軽に練習会場(森アリーナ)にお立ち寄りください。

代表 富田敏照

議会を聴きにきませんか

前回の議会では、のべ52人の方が、議会へ足を運んでくださいました。めんどろな手続きは必要ありません。是非、お越しください。

- 定員数28名
- お問い合わせ先…議会事務局
電話 0538-85-6329

<3月定例会の予定>

- 3月11日(金) 本会議 初日
- 3月15日(火) 本会議 2日目
- 3月17日(木) 常任委員会
- 3月18日(金) 〃
- 3月22日(火) 〃
- 3月28日(月) 本会議 最終日

※会議の開始時間は午前9時30分です。
※日程が変更される場合もありますのでご了承ください。

あの 一般質問

どうなっただいやあ～

【平成27年3月定例会】

Q 公衆トイレ・学校トイレの洋式化は。

A 公衆トイレは大門東公園の1基を年度内に洋式化。学校のトイレは、飯田小・森小・三倉小で計6基を洋式に変更した。

学校の洋式化率は今後5箇年で40パーセント、将来的には60パーセントを目標に改修していく予定。

ひとこと

我が子を含め、20数年経って、成人式に出席している。

子どもたちの成長は早いもので、小学生だったころのやんちゃな顔が、ひげを生やしたり、化粧をしたりして大人の顔になり、誰であったかまったく分からない子もいたりする。

そんな成長した子ども、いや大人になった姿を見るのは大変うれいし、自分の子どもではないのに感慨深く、私の心を暖かくしてくれる。

新成人が今後も健やかに、順調に成長していくことを、また本年が災害のない平穏な年であり、町民のみなさんが平和に過ごされることを祈って……

T・おさわ

議会だより編集委員会

- 議長 片岡 健
- 委員長 山本 俊康
- 副委員長 中根 幸男
- 委員 吉筋 恵治
- 委員 小澤 哲夫
- 委員 伊藤 和子